

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

después (de) que における現在形と現在完了形の法について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2020-03-19 キーワード (Ja): después de que, después que, 接続法, 法選択, 副詞節 キーワード (En): 作成者: 辻井, 宗明 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007910

después (de) que における現在形と現在完了形の法について

辻井 宗 明

要 旨

辻井 (2003, 2014) で調査したように、現在、スペインにおける過去領域 después (de) que ではほとんどの場合接続法が使われている。それでは、現在領域での法選択はどうなっているのだろうか。本稿では、現在形、及び完了的過去事態を表す現在完了形の2形式を対象に調査する。まず、過去領域 después (de) que で主に直説法が使われていた1900年代前半と、接続法が支配的な2000年代初頭において、現在形と現在完了形で使用される法の偏りを頻度調査する。また、después (de) que を含む「時」の副詞節に関して、従来唱えられてきた法選択基準が実際の用法に合致しているのか、あるいはそうでないのであれば、何がどの程度、どのような用法において使用が変化してきたのかを用例を詳細に分析して明らかにする。

キーワード：después de que、después que、接続法、法選択、副詞節

0. はじめに

現在、過去領域 después (de) que において使用される時制・法形式は、元は主に直説法であったが、それが接続法過去 -ra 形や -se 形が使われるようになっていく。辻井 (2003) によれば1990年代のスペインにおける調査では、接続法過去が98.4%、辻井 (2014) による2005年スペインの“報道”の調査では100%が接続法過去であったという。

さて、もはや「時」を表す副詞節としては異例といってもいい法選択の状況を呈する同統語条件であるが、現在領域の法選択はどうなっているのだろうか。本稿では、まず第一に、過去領域 después (de) que で直説法が主に使われていた時期である1900-1949年（以後は「1900年代前半」と称する）と、接続法が支配的な時期である2010-2011年（以後は「2000年代初頭」と称する）で、現在領域や現在完了の法に関して頻度調査を実施し、これまで唱えられてきた法選択基準が実際の用法と照らして妥当であるのかを検証したい¹⁾。第二に、もし、法選択基準が従来の基準と合致しないのであれば、どう変わってきているのかを具体的な事例で確認したい。なお、本研究の対象は、después (de) que における現在形と現在完了形であるが、現在完了形は過去事態を示す用法も対象とする（以後は、接続法過去などが使われる一般的過去領域の事態と区別するため、「完了的過去事態」と称す）。したがって、以後は便宜的に、完了的

過去事態を示す現在完了形を含めて「después (de) que (現在・現在完了)」と称することにする。

第1節では、después (de) que を含む「時」の副詞節について従来唱えられてきた法選択基準を概観し、第2節では、スペインにおける1900年代前半と2000年代初頭の同用法について各法の頻度調査を実施し²⁾、具体的な用例を吟味して比較する。第3節では、法使用の推移を見るべく1900年代後半について細かく年代を分けて調査する。そして、第4節では、スペイン出身者によるインフォーマント調査で現状を把握し、くわえて過去領域 después (de) que においてスペインほど接続法化が進んでいないメキシコの状況を調査し、これらのことから推論される法の移行に関する仮説を報告したい。

1. después (de) que における法選択の基準について (先行研究)

まず、「時」の副詞節としての法選択基準がどのように説かれてきたのかを、学習書や研究書で概観してみよう。

Fente, Fernández y Feijóo (1981: pp. 26-27) や Fernández (1984: pp. 57-58) は、具体的な例文は出していないものの “después de que” を「時」を表す従属節語句として cuando や en cuanto 等と同列に挙げ、「経験」(experiencia) は直説法、「予定」(anticipación: 従属動詞の行為がまだ行われていない場合、すなわち、話者が従属動詞で表された行為を前もって述べる場合) は接続法として (1)~(3) の cuando の例を出して説明している。

- | | | |
|--|---|---|
| (1) ¡Póngase usted la chaqueta cuando
<i>llega</i> el jefe! | ≠ | ¡Póngase usted la chaqueta cuando
<i>llegue</i> el jefe! |
| (2) ¡Salude usted cuando <i>pasa</i> un oficial! | ≠ | ¡Salude usted cuando <i>pase</i> un oficial! |
| (3) ¡Debes bajar cuando te lo <i>ordenan</i> ! | ≠ | ¡Debes bajar cuando te lo <i>ordenen</i> ! |

Navas Ruiz (1986: p. 96) は、実際に después (de) que の例 (4) と (5) を挙げ、すでに起こった行為や事実 (過去や現在) であれば直説法、仮定的 (未来) であれば接続法であるとする。

- (4) Nos ponemos en camino *después que sale* el sol.
 (5) *Después de que vengas*, hablaremos del asunto.

Sastre (1997: pp. 160-161) は、“después (de) que” の用法として、次のように述べている。

El subjuntivo (formas cantara, -se y hubiera, -se cantado) y el indicativo alternan cuando se hace referencia a acciones pasadas o habituales en el presente, aunque es más frecuente el subjuntivo.

Tú bien sabes que yo no te quiero en la calle *después que oscurezca*.

過去の行為に直説法と接続法が共に使われるのはよく観察されることであるが、現在の習慣でも両法が使われ、接続法の方がよく使われるというのは特徴的な見解である³⁾。

RAE y ASALE (2009: pp. 1953-1954) の説は、“después de que” における法について、意味との関連を挙げているところに特徴がある。すなわち、話者がその予想に反する不都合な事態 (contrariedad) として提示する場合 (≒ a pesar de todo ello) や原因の意味では直説法が、後事 (posterioridad) の場合は接続法が使われると述べている。

(6) *¿Después de que seduce a mi hijo, todavía quiere casarse con él? – dijo Ángela – . ¡Qué deshachatez!* (不都合な事態)

(7) Pero ahora *después de que te he visto*, se me ha descabulado la idea. (原因)

その他、Martinel(1985: p. 48)、Borrego, Gómez y Prieto (1986: pp. 137-139)、Butt & Benjamin (1988: pp. 265-266)、Porto Dapena (1991: p. 191)、Pérez Saldanya (1999: p. 3311)などを参考にしてそれらの意見をまとめると、おおよそ次のようになるだろう。ただ、Sastre (前掲書) の「現在の習慣における接続法の使用」については、別に扱うことにする。

表 1 : después (de) que(現在・現在完了)の法使用基準のまとめ (先行研究)

直説法	接続法
<p>経験的事態</p> <p>（ 現在・過去の習慣的事態 終わった事態 話者の予期せぬ不都合な事態 原因 ）</p>	<p>仮定的事態</p> <p>（ 未来（後事）の事態 終わっていない事態 ）</p>

2. 1900年代前半と2000年代初頭における法選択について

本節では、1900年代前半と2000年代初頭という二期における después (de) que (現在・現在完了) の法選択について、その頻度および具体的な意味内容を検討したい。

2.1. 1900年代前半における *después (de) que* (現在・現在完了)

第1節の表1を基にして、次のような用法別に統計を取った。すなわち、先行研究で接続法が用いられるとされる「仮定的な事態（未来）」と、直説法が用いられるとされる「経験的事態」とに分け、実例の解釈から後者の下位分類として、「完了的過去事態」、「歴史的現在」および「現在の出来事や習慣」を設ける。(8)~(10)はその典型的な例である。(8)「don Amadeoが入ってしまう (*hayas entrado*) まで戻ってくるな」(仮定的な事態（未来))、(9)「手を切り落とされた (*han cortado*) 後、どうして家族の面倒をみないといけないのか」(完了的過去事態)、(10)「郵便屋が帰った (*se va*) 後、手紙を開けた」(歴史的現在)、(11)「仲間がいい闘牛をした (*ha estado bien*) 後は、私もより気持ちよくなるのだ」(現在の出来事や習慣)である。

「仮定的な事態（未来）」接続法

- (8) ... no vuelvas hasta *después que haya entrado* don Amadeo (1908, Pérez Galdós, Benito, *España trágica*, Biblioteca Virtual Miguel de Cervantes, Alicante: Universidad de Alicante)

「経験的事態 — 完了的過去事態」直説法

- (9) ¡Cómo he de volver a Mossul, mi país natal; cómo he de atreverme a mirar a mi familia *después de que me han cortado* una mano! (c 1916, Blasco Ibáñez, Vicente, *Traducción de Las mil y una noches*, Miami: Omega Internacional)

「経験的事態 — 歴史的現在」直説法

- (10) Charlo un rato con el cartero y *después que se va*, dando saltos y haciendo cabriolas, abro la carta. (1948, Mihura, Miguel, *Mis memorias*, : Barcelona: Ediciones Mascarón)

「経験的事態 — 現在の習慣」直説法

- (11) ... yo toreo más a gusto *después que un compañero ha estado bien* en un toro (1947, El Caballero Audaz (José María Carretero). *El libro de los toreros. De Joselito a Manolete*, Madrid: Biblioteca Nueva)

これらの用法と法に関して頻度調査したものが次の表である。括弧内の「現」は現在形、「完」は現在完了形を表す（括弧内の数値は例数）。

表2：1900年代前半における después (de) que (現在・現在完了)の法選択⁴⁾

用法		直説法	接続法	合計
仮定的な事態 (未来)		0% (0)	100% (42) (現:14, 完:28)	100% (42)
経験的 事態	完了的過去事態	100% (12) (現在:0, 完:12)	0% (0)	100% (12)
	歴史的現在	100% (5) (現在:3, 完:2)	0% (0)	100% (5)
	現在の出来事や習慣	82% (56) (現在:19, 完:37)	18% (12) (現在:6, 完:6)	100% (68)
合計		57% (73)	43% (54)	100% (127)

(CORDE, Geográfico: “España”)

従来の説のとおり、「仮定的な事態 (未来)」はすべてが接続法で、「経験的事態」はほとんどが直説法である。「経験的事態」のみで法の偏りを計算してみると、約86%が直説法である。ただ、「現在の出来事や習慣」のみ18%に接続法が使われている。では、この「現在の出来事や習慣」で、それぞれの法がどのようなテーマと結びついているのか。その調査結果が次の表3であり、大きく分けて3種類に分類できる。

表3：1900年代前半 después (de) que (現在・現在完了)「現在の出来事や習慣」のテーマ

用法	テーマ	直説法	接続法	合計
現在の出来事 や習慣	論説や科学的記述	100% (34)	0% (0)	100% (34)
	客観的描写	100% (13)	0% (0)	100% (13)
	手順や方法	43% (9)	57% (12)	100% (21)
	合計	82% (56)	18% (12)	100% (68)

(CORDE, Geográfico: “España”)

「論説や科学的記述」と「客観的描写」は直説法でのみ表現されているが、「手順や方法」は両法が使われている。このそれぞれの具体的なトピックは次のとおりである。

表4：1900年代前半 *después (de) que* の「現在の出来事や習慣」で扱われるトピック

用法	テーマ	トピック (直説法)	トピック (接続法)
現在の出来事 や習慣	論説や科学的記述	歴史・哲学・生物学・文学・ 社会・天文学・解剖学・軍 事・映画・宗教・電磁気・ 工学・教育	
	客観的描写	自伝・風景・絵の解説・人 の一般的行動の描写	
	手順や方法	料理のレシピ・家畜の世 話・規則・Naipes のルール・ 儀式の手順	料理のレシピ・家畜の世 話・規則・Naipes のルー ル・標本の作り方

(CORDE, Geográfico: “España”)

「手順や方法」の4つのトピック（料理のレシピ・家畜の世話・規則・Naipesのルール）は両法に共通する。次の例(12)での「適温になった（*se templá*）後、卵を加える」には直説法が、(13)「全体が煮たち始めた（*haya comenzado*）後、2時間半から3時間必要でしょう」では接続法が使われている。

<料理のレシピ>直説法

(12) cuando hierve, se añade un cuarterón de harina, y se deja cocer un cuarto de hora, moviéndolo; se retira, y *después de que se templá*, se le añaden tres o cuatro huevos (1913, Pardo Bazán, Emilia, *La cocina española antigua y moderna*, Biblioteca Virtual Miguel de Cervantes, Alicante: Universidad de Alicante)

<料理のレシピ>接続法

(13) Operando con las cantidades indicadas necesitará para hacerse de dos y media a tres horas, *después de que haya comenzado* a hervir el conjunto. (1940, Mestayer de Echagüe, María (Marquesa de Parabere), *Enciclopedia culinaria. La cocina completa*, Madrid: Espasa-Calpe)

次の(14)と(15)は、家畜の給餌に関する記述であり、(14)「露がなくなった (*ha desaparecido*) 後、通常一日に一度ひっくり返す」、および(15)「牧草の利用は、露が乾いた (*se haya secado*) 後でなければならない」というものである。

<家畜の世話> (直説法)

(14) Cuando la siega se ha realizado con la guadaña, la hierba cortada queda formando fajas o hileras, que suelen volverse por lo menos una vez al día, *después que* el rocío

ha desaparecido, hasta que esté desecada (1921 - 1944, González Vázquez, Ezequiel, *Alimentación de la ganadería y los pastizales españoles*, Madrid-Barcelona: Ediciones Técnicas)

<家畜の世話> (接続法)

- (15) El aprovechamiento de los prados debe tener lugar *después que se haya secado* el rocío, siendo muy conveniente, como para toda clase de ganados, desde el punto de vista higiénico (前掲書)

結局、「料理のレシピ」も「家畜の世話」も、「手順や方法」というものは、単に手順を客観的に書き留めることも、あるいは、未来において実行されることを前提とした一種の指導や指示として提示することも可能である。それ故、使われる法は揺れを示し、その選択は恣意的である。(14)と(15)の例では、同じ著者が同じ書籍の中で異なった法を使用している。これはまた、規則(法律)や遊びのルール説明でも同じことが言え、次の(16)「民法では、公共の土地では10mを越えないボーリングなら許可されている (permite) が、427条で次のように宣言されている」や(17)「一定の金額を供託した (se haga) 後なら、許可は与えられるだろう」、および(18)「たとえ、勝負が終わった (se ha ido) 後でも、誰にも相手の手札を見る権利はない」や(19)「相手チームの一人がフロールを宣言した (haya cantado) すぐ後にコントラフロールをしなければならぬ」のように揺れを示す。

<規則>直説法

- (16) El Código civil, *después que permite* hacer calicatas o excavaciones que no excedan de 10 metros de extensión en longitud o profundidad, en terrenos de dominio público, [...] declara en su art. 427 que los límites del derecho mencionado [...] se regirán por la ley especial de minería. (1900-1928, Maura y Montaner, Antonio, *Dictámenes. Tomo II. Propiedad, posesión, usufructo y propiedades especiales*, Madrid: Saturnino Calleja, S. A.)

<規則>接続法

- (17) La autorización sólo podrá concederse *después que se haga* el depósito de la cantidad... (1909, Anónimo, *Reglamento [Leyes, reales decretos, reglamentos y circulares de más frecuente aplicación en los trib ...]*, Madrid: Est. Tip. de los Hijos de Tello)

<Naipesのルール>直説法

- (18) Nadie, salvo los casos especiales especificados anteriormente, tiene derecho a mirar las cartas de otro, ni aún *después que se ha ido* a baraja. (1944, Anónimo, *Juegos de*

naipes españoles, Vitoria: Hijos de Heraclio Fournier)

< Naipes のルール > 接続法

- (19) El que echa la contraflor puede ser el primero, el segundo o el último de los jugadores de un bando que ha cantado Flor; pero debe hacerlo siempre inmediatamente *después que* las **haya cantado** uno del bando contrario. (1944, Anónimo, *Juegos de naipes españoles*, Vitoria: Hijos de Heraclio Fournier)

「手順や方法」の上記の例を見ると、従属動詞が接続法になっているものでは、主動詞が未来形や命令や義務の意味が多い。すなわち、(13)necesitará, (15)debe tener, (17)podrá concederse, (19)debe hacerlo である。それに対して、直説法を導いている主動詞は、その他の平叙文や現在形、(12)se le añaden, (14)suelen volverse, (16)declara, (18)tiene derecho である。「手順や方法」における両法の選択基準は、話者がその内容を現在における記述に留めるか、あるいは、未来に起こるものとして一種の指導や指示を述べるかに依存する。だからこそ科学的記述は、指導や指示のようにそれを未来に行うことを前提とすることは少ないので直説法が多く、料理のレシピなどは、未来に実行されるであろうと話者が前提して記述することが可能なので予定になりやすく、接続法が使われやすくなるのである。

これこそが第1節でみた Sastre (前掲書)の言う「現在の習慣で使われる接続法」であろう。同氏の挙げた *Tú bien sabes que yo no te quiero en la calle después que oscurezca*. という例文は、「(通常)暗くなった後は表には出るものではない」という習慣的行為に言及しながらも、実は「(今後)暗くなった後は表には出てはいけない」という、未来における願望や指示を表現した例であろう。これはまた、第1節で述べた Fente, Fernández y Feijóo (1981)などが挙げた例(1)~(3)が意味する法の差と同じことである。結局、先行研究は、1900年代前半の *después (de) que* における法選択の基準に関しては、概ね的確であるということになる。

2.2. 2000年代初頭における *después (de) que* (現在・現在完了)

2010-2011年の期間で、表4と同じ内容に分けてその法選択を調べると次のようになった。

表5：2000年代初頭における después (de) que(現在・現在完了)の法選択

テーマ		直説法	接続法	合計
仮定的な事態（未来）		0% (0)	100% (35) (現:26, 完:9)	100% (35)
経験的事態	完了的過去事態	9% (6) (現在:0, 完:6)	91% (59) (現在:0, 完:59)	100% (65)
	歴史的現在	10% (2) (現在:2, 完:0)	90% (19) (現在:8, 完:11)	100% (21)
	現在の出来事や習慣	17% (4) (現在:4, 完:0)	83% (20) (現在:8 完:12)	100% (24)
合計		8% (12)	92% (133)	100% (145)

(CORPES XXI, Países: “España”)

この表の特徴的な部分は、「経験的事態」の接続法使用率の上昇である。「経験的事態」だけを計算して表2と比較すると、1900年代前半での接続法使用率は14%であったのに対し、ここでは89%に達している。詳細に見ると、1900年代前半の「完了的過去事態」と「歴史的現在」は、接続法0%であったが、2000年代初頭では両者とも接続法が90%を越えて使用されている。(20)は「MascheranoがBarçaと契約した(haya fichado)後、リバプールは彼を惜しくなるだろう」(完了的過去事態)、(21)は事件後の記事で「ブラジル警察が死体を発見した(descubra)2日後、スペインの新聞が報じた」(歴史的現在)というものである。

「完了的過去事態」接続法

(20) El centrocampista brasileño Lucas Leiva aseguró este lunes que el Liverpool “va [sic] echar mucho de menos a Mascherano”, *después de que* el ‘Jefecito’ **haya fichado** por el Barça (2010, *Sport.es*. Barcelona: sport.es, 2010-09-06.)

「歴史的現在」接続法

(21) Dos días *después de que* la policía brasileña **descubra** los cadáveres, la prensa española se hace eco de la noticia. (2011, Reverte, Jorge M.: *La división azul. Rusia 1941-1944*. Barcelona: RBA.)

さて、「現在の出来事や習慣」を表3と同じ分類で、使用される法を比較してみた。

表6：2000年代初頭 *después (de) que* 「現在の出来事や習慣」におけるテーマ

用法	テーマ	直説法	接続法	合計
現在の出来事 や習慣	論説や科学的記述	0% (0)	100% (9)	100% (9)
	客観的描写	43% (3)	57% (4)	100% (7)
	手順や方法	12% (1)	88% (7)	100% (8)
	合計	17% (4)	83% (20)	100% (24)

(CORPES XXI, Países: “España”)

表2の1900年代前半と比べると、「論説や科学的記述」は圧倒的に接続法の使用が多くなり(0%→100%)、「客観的描写」も1900年代前半では0%であったものが57%になっている。(22)は「サンショウウオの四肢再生は、脚が切断された (*se ampute*) 後すぐに開始される」ことが説明され、(23)は「(西サハラにおける取材に関して) 許可はまずもらえないか、遅れるか、あるいは許可が取材対象のイベントが済んだ (*haya ocurrido*) 後で着いたりする」という現状が接続法で述べられている。

「論説や科学的記述」接続法

(22) La regeneración comienza inmediatamente *después de que* se les **ampute** una pata, en un proceso que hace que las células de la piel migren hasta cubrir totalmente la herida en menos de doce horas formando una especie de muñón. (2010, García-Albi, Inés; Isamat, Marcos: *¿Por qué mi hijo se parece a su abuela?*, Barcelona: Random House Mondadori)

「客観的描写」接続法

(23) En la práctica cada vez que queremos hacer una cobertura de un asunto delicado el permiso nunca llega o lo hace con retraso (a veces, *después de que haya ocurrido* el evento que uno quiere cubrir). (2010-10-30 «Periodistas en el Sáhara». Desde Rabat: *Crónicas de la otra orilla*. www.blog.rtve.es/desdemarruecos: blog.rtve.es/desdemarruecos)

さて、「手順や方法」についても1900年代前半と比較すると、接続法が88%と増加している。1900年代前半を調べた表4の結果について、事態を単に客観的に記述することも、未来に実行されることを前提とした一種の指導や指示として提示することも可能であると述べたが、2000年代初頭はどうか。次の表7は「現在の出来事や習慣」で扱われるトピックを示したものである。

表7：2000年代初頭 después (de) que の「現在の出来事や習慣」で扱われるトピック

用法	テーマ	トピック (直説法)	トピック (接続法)
現在の出来事や習慣	論説や科学的記述		料理に関する一般的論説、生物学、医学、報道、幼児教育、テクノロジー、演劇、ゲーム、文学評論
	客観的描写	話者の現在の行為、主語の現在の行為、人の習慣的行為	サッカー解説、ある国の習慣的描写、文学的描写、社会情勢
	手順や方法	治療の指示	食品の保存方法、筋トレ方法、植木の剪定方法、河川の釣りの規則、法律、バスケットボールのルール

(CORPES XXI, Países: “España”)

「手順や方法」では、規則やルールはほとんど接続法になっており、1900年代前半のように直説法を使って、現在の記述に留めるというようなことは少ないように見える。表内の「バスケットボールのルール」はルールブックからの直接引用の形になっており、(24)「ピリオド終了の合図 (suene) の後、ボールがリングに触った (haya tocado) 後、ゴールに入る可能性がある場合、誰もそのボールに触ってはいけない」という例である。

「手順や方法 - バスケットボールのルール」接続法

(24) En el mismo se determina que “ningún jugador tocará el balón *después de que haya tocado* el aro mientras tenga posibilidad de entrar en la canasta *después de que (...)* suene la señal de fin de periodo mientras el balón está en el aire durante un lanzamiento de campo”. (2010, *El País.com.*: Madrid: elpais.com, 2010-02-04.)

スポーツのルールブックは、現在の客観的な記録なのか、未来に向けた指示として記述されるのか非常に興味深いレジスターである。上記の調査とは別に、いくつかのバスケットのルールブックで después (de) que (現在・現在完了) を調査してみた。1957年のルールブック (FEB, 1957) では7例中接続法は1例のみ、1964-68年 (FEB, 1965) では5例中接続法は1例、2012年のもの (Reglas oficiales del baloncesto 2012) では、40例中すべてが接続法であった。ここでもやはり2000年代の接続法化が顕著である。

また、第1節で、RAE y ASALE (2009) が、直説法が使われた場合には「原因」や「予想に反する不都合な事態」(“a pesar de todo ello”) を意味すると述べていることを紹介したが、この年代では、接続法でもその意味を表しているものがある。

- (25) El conseller de Interior, Felip Puig, comparecerá a petición propia en comisión parlamentaria *después de que* la oposición **haya censurado** este jueves el operativo policial planificado ante las protestas de los violentos para bloquear el acceso al Parlament y le **haya acusado** de no garantizar la “integridad física” de los diputados y los trabajadores de la Cámara. (*El Mundo.es*. Madrid: elmundo.es, 2011-06-16.)
- (26) El expresidente de Pakistán Pervez Musharraf no se entregará a la justicia de su país *después de que* un tribunal de Rawalpindi **haya emitido** este sábado una orden de arresto en el marco de la investigación del asesinato de la primera ministra Benazir Bhutto. (*Diario de León.es*. León: diariodeleon.es, 2011-02-12.)

(25) では、「Felip Puig は、野党が警察の作戦を非難し (haya censurado)、彼を告発した (haya acusado) 後、出頭する予定である」というより、「非難し告発したので」のように「原因」と捉えるのが自然であろう。(26) では、「ムシャラフ元大統領は、裁判所から先週土曜日に逮捕命令が出された (haya emitido) のに出頭しない」という “a pesar de” の意味であろう。

3. 完了的過去事態の接続法化の時期、および過去領域との相関関係について

3.1. 完了的過去事態の接続法化の時期

過去領域でも現在や現在完了でも、1900年代前半は直説法、2000年代初頭は接続法が支配的であることがわかった。ここでは、その推移の詳細について考えてみたい。

「現在の出来事や習慣」の中の「手順や方法」で使われる接続法は1900年代前半にはすでに存在していたが、2000年代初頭にはその使用率を増やしている。ところが、「完了的過去事態」や「歴史的現在」では、0%であったものが90%以上に増加している。すなわち、前者は程度の変化であるのに対し、後者は質の変化であると考えることができる。このような変化がいつ頃から、どのように起こり始めたのかを確認するためには、これまでに検証した二期の間を細かく分け、その用法ごとに使用される法を検証していくしか方法はないように思われる。具体的には、1900年代後半を10年毎に刻んで同統語条件における法を「仮定的事態 (未来)」と「経験的な事態」に分けて調査した。

表 8 : 1950-1999 までの después (de) que (現在・現在完了) の変遷

		1950-59		1960-69		1970-79		1980-89		1990-99	
		直	接	直	接	直	接	直	接	直	接
仮定的な事 態 (未来)		0% (0)	100% (5)	0% (0)	100% (6)	0% (0)	100% (11)	0% (0)	100% (37)	0% (0)	100% (79)
経 験 的 事 態	完了的 過去	100% (1)	0% (0)	100% (2)	0% (0)	50% (3)	50% (3)	50% (14)	50% (14)	17% (17)	83% (81)
	歴史的 現在	75% (3)	25% (1)	0% (0)	100% (1)	- (0)	- (0)	0% (0)	100% (3)	43% (3)	57% (4)
	現在や 習慣	86% (12)	14% (2)	94% (15)	6% (1)	69% (9)	31% (4)	33% (6)	67% (12)	45% (37)	55% (46)
	合計	67% (16)	33% (8)	68% (17)	32% (8)	40% (12)	60% (18)	23% (20)	77% (67)	21% (57)	79% (210)

(完了的過去=完了的過去事態、現在や習慣 = 現在の出来事や習慣)

(CORDE, CREA, Geográfico: "España")

ここで注目したいのは、やはり「完了的過去事態」と「現在の出来事や習慣」で、この二つのみを取り出して変遷を示したのが図 1 である。なお、比較のために辻井 (2008) の調査による「新聞」および「書籍」で使われる過去領域の接続法過去 (図では「-ra/se (新聞 / 書籍)」と表記) の数値を棒グラフで示した⁵⁾。

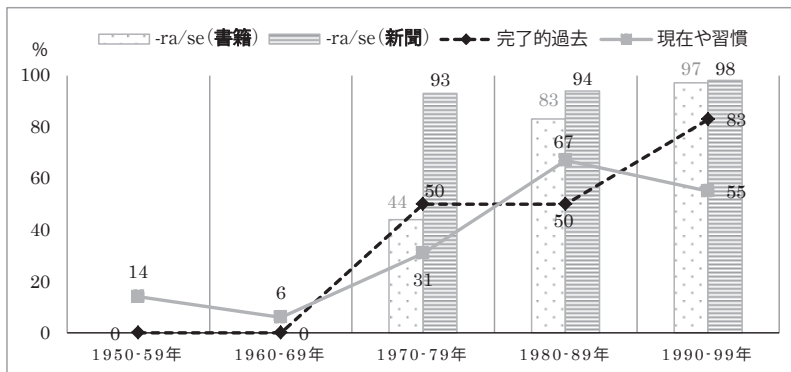


図 1 : 1900 年代後半における接続法の使用率 (「完了的過去事態」と「現在の出来事や習慣」)

1969 年まではサンプル数に限りがあり、統計として利用するには問題がある。ただ、その後の推移を見ると、「現在の出来事や習慣」は接続法化を進めながらも、その恣意性のためか

一定していない。しかし、「完了的過去事態」では着実に接続法化が進んでおり、その質的な変化を伺わせる。そして、それが80%を超えるのが1990年代である。過去領域 “después de que” の「新聞」は、1970年ですでに93%、一般的に接続法化が遅い「書籍」でも1980年代で83%を示している。したがって、過去領域に遅れること10年～20年で後を追うように完了的過去事態を示す現在完了が83%の接続法に達している。このことは、過去領域 después (de) que の法使用が、完了的過去事態の法使用に直接影響を与えたことを示唆するものではないだろうか。この二つの相関性に関して、次の (27) と (28) の例を見てみよう。

(27) Las acusaciones contra el exdirector gerente del FMI Dominique Strauss-Kahn por intento de violación están en la cuerda floja *después de que* los investigadores **hayan encontrado** “grandes agujeros” de credibilidad en el testimonio de la empleada del hotel que le denunció, informó hoy “The New York Times” (2011, *La Voz de Galicia.es*. A Coruña: lavozdegalicia.es, 2011-07-01.)

(28) El 30 de junio las acusaciones contra el ex director gerente del FMI por intento de violación están en la cuerda floja *después de que* los investigadores **encontraran** “grandes agujeros” de credibilidad en el testimonio de la camarera de hotel, según informó el New York Times. (*CADENA SER*, 2011-8-23)

両例とも「Dominique Strauss-Kahn に対する強姦未遂容疑での告発は、捜査官達がホテル従業員の証言の信憑性に大きな穴を見つけたことで、揺らいでいる」という内容の記事であるが、(27) は、6月30日の事件を7月1日に伝えた記事で、(28) はそれを基にして8月23日に再び記事にしたものであろう。その際、encontrar という行為が現在完了から過去へと接続法のまま書き換えられたと考えられる。これは、一般的な過去と完了的な過去という違いはあるにせよ、同じ終了した行為という範疇で法をそのまま引き連れた形で時制形式を移行させたということであり、その二つが非常に類似した文法環境であることがわかる。元々、過去事態においては、cantó / cantara がせめぎ合っている状態であったが、1970-80年代入り、過去領域 después (de) que には主に接続法過去が支配するようになる。そして、そこから直接的に影響を受けて1980-90年代には完了的過去領域にも haya cantado が使われるようになったと考えられる。このように、この二つの文法環境は過去の叙実という類似性をもつため、法選択が容易に影響し合うであろうことが推測できる。

このような両文法環境の類似性や相関関係は次の (29) と (30) の例でも見受けられる。両例とも después (de) que の等位接続の例であるが、(29) は1997年の新聞記事で「アメリカで有鉛ガソリンが廃止された (se haya eliminado)」1986年の事態と、「カリフォルニアが法律を承認し

た (aprobara) 事態、すなわち1990年の Zero-emission vehicle 法に言及しているが、それぞれ接続法の現在完了と過去で表されている。現在完了の使用理由は定かではないが、母語話者によると、se haya eliminado の代わりに se eliminara も可能であるという。また、(30) は1977年の総選挙の記事であり、「スペイン民衆が投票した (haya votado)」事態と「バスク民衆が投票して (acudiera) 選んだ (eligiera)」事態は、同じ総選挙に言及しており、「政府がバスクの政治犯の釈放を採択した (optara)」時期も同時期である。これらの事態に、完了的事態と一般の過去事態を混在させて使用している。

(29) El revelador estudio aparece una década *después de que* en EEUU **se haya eliminado** la gasolina con plomo para los automóviles, y de que el estado de California **aprobara** una ley en la que exige que en 1998 el 2% de los coches matriculados sea “cero emisiones”, o lo que es lo mismo, que sean coches limpios. (1995, *El Mundo*, 08/08/1995 : Madrid)

(30) Apenas unos días *después de que* el pueblo español **haya votado** en las urnas a sus representantes (derechistas, centristas, socialistas y comunistas), de que el pueblo vasco **acudiera** a los comicios y **eligiera** a sus congresistas y senadores (entre ellos a más de diez miembros del Partido Nacionalista Vasco y dos candidatos incluidos en las listas, apoyadas por grupos de ETA, de Euskadiko Ezkerra) y de que el Gobierno **optara** por la excarcelación de todos los presos políticos vascos, cualquier intento de justificar políticamente ese eventual crimen sería una burda comedia. (1977, *El País*, 21/06/1977 : *Diario El País*, S.A. : Madrid)

3.2. 完了的過去事態と過去領域との相関関係 (メキシコにおける después (de) que)

辻井 (2014) は、México, Argentina, Chile, Colombia, Zona Andina (Bolivia, Ecuador, Perú) における過去領域 después de que の法選択を頻度調査しスペインと比較している。その結果を見ると、メキシコがもっとも保守的な法選択を保持しており、“Periódicos” と “Revistas” での接続法使用率に関し、1994-1996年では16.3% (スペインは98.4%)、2004-2006年の “Prensa” でも44.1% (スペインは100%) に留まっている。そこで、このような傾向にあるメキシコにおいて después (de) que (現在・現在完了) の法を調査した。

念のために本稿で調査している年代とほぼ同年代でメキシコの過去領域 después (de) que を調べてみると、直説法364例に対し接続法252例と、接続法使用率は辻井 (前掲書) で示されたものと同程度の約41%であった⁶⁾。

表8：メキシコ2000年代初頭におけるdespués (de) que（現在・現在完了）の法選択

テーマ		直説法	接続法	合計
仮定的な事態（未来）		0% (0)	100% (31) (現26, 完5)	100% (31)
経験的 事態	完了的過去事態	71% (10) (現在:0, 完:10)	29% (4) (現在:0, 完:4)	100% (14)
	歴史的現在	92% (12) (現在:10, 完:2)	8% (1) (現在:1, 完:0)	100% (13)
	現在の出来事や習慣	89% (40) (現在:20, 完:20)	11% (5) (現在:3, 完:2)	100% (45)
合計		60% (62)	40% (41)	100% (103)

(CORPES XXI, Países: “México”)

経験的事態だけを見ると、直説法62例と接続法10例であり、接続法使用率は約14%と低いが、過去領域 después de que が41%であるメキシコにおいて、「歴史的現在」や「現在の出来事や習慣」の接続法が8%と11%であるのに比して、「完了的過去事態」の29%は高い数値である。このことから、過去領域と完了的過去事態の間に、法使用の影響を受けるような近い関係があるのではないかと推測される。

4. スペイン語話者の現状と después (de) que（現在・現在完了）接続法化の過程について

実際、スペインの人々の después (de) que（現在・現在完了）における法選択は、第1節で見た基準や、これまでのデータによる結果に照らしてどうなのだろうか。

ここでは、次のように inmediatamente después de que, tan pronto como, en cuanto を使って、現在の習慣と完了的過去事態を表す現在完了形で作例し、直説法と接続法のいずれが自然 (suena mejor) かをスペイン出身の20代～50代の男女10人 (A～J) に対して質問した。

（現在の習慣）

- (31) Generalmente los pájaros empiezan a cantar ...
 ... (a) *inmediatamente después de que* |sale / salga| el sol.
 ... (b) *tan pronto como* |sale / salga| el sol.
 ... (c) *en cuanto* |sale / salga| el sol.

（完了的過去事態）

- (32) El presunto autor ha salido del país ...
 ... (a) *inmediatamente después de que* una revista |ha publicado / haya publicado| sus fotos.

después (de) que における現在形と現在完了形の法について

... (b) *tan pronto como* una revista {ha publicado / haya publicado} sus fotos.

... (c) *en cuanto* una revista {ha publicado / haya publicado} sus fotos.

表9：(31)と(32)における法選択に関するスペイン出身者の回答

	A 20f	B 30m	C 40f	D 40f	E 40f	F 50f	G 50m	H 50m	I 50m	J 50m
(31a)	salga	sale	salga	salga	salga	salga	salga	salga	salga	salga
(31b)	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale
(31c)	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale	sale
(32a)	haya	ha	haya	haya	haya	haya	haya	haya	haya	ha
(32b)	haya	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
(32c)	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha

(ha=ha salido、haya=haya salido、20=20代、30=30代、40=40代、50=50代、m=男性、f=女性)

接続法をグレーで表示したように、inmediatamente después de que について (31a) の習慣的現在では9人が、(32a) の完了的過去事態では8人が接続法を選択した⁷⁾。

このことから、2000年代初頭では、過去領域 después (de) que においてほぼ100% 近く接続法が使用されるスペインでは、現在・現在完了においても接続法が支配的であると言っていいだろう。すなわち、antes de que 以外の「時」の副詞節とは異なり después (de) que はあらゆる文脈で、少なくともスペインでは、接続法が無標の位置にあると言っても過言ではない。

この現象の要因としては、過去領域 después (de) que における接続法過去の使用が拡大し、そのことが完了的過去事態を表す現在完了における接続法の使用を促し、ついには現在領域に広がったのであろうと考える。ただし、歴史的現在の用法に関しては、十分な用例数が得られなかったため、どこに位置するのかは現段階での断定を避けたい。その過程は、次のようにまとめることができる。

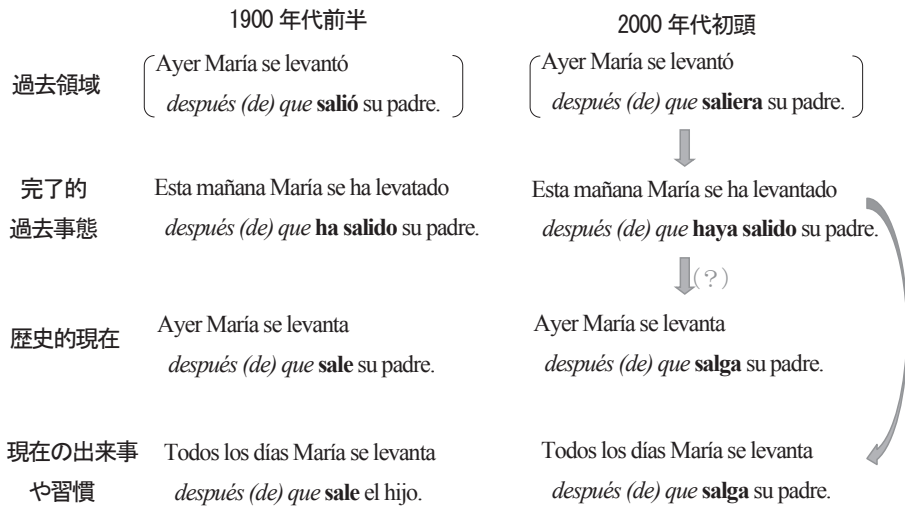


図2：después (de) que（現在・現在完了）接続法化の過程

過去領域 después (de) que の接続法が、現在の出来事や習慣をいきなり接続法化することは考えにくい。おそらく、過去領域 “después (de) que **salió**” が “después (de) que **ha salido**” を “después (de) que **haya salido**” に移行させたのではないかと考えられる。その二つの過去事態の相関関係の証左として、1900年代後半に完了的過去事態が過去領域を追って接続法が増える様子や、等位接続された従属節において、同じ時期の事態に接続法の過去と現在完了が並列的に使用されている例があったり、また、過去領域 después (de) que の接続法化が40%程度のメキシコにおいて、現在領域（歴史的現在：8%、現在の出来事や週間：11%）と比べ、完了的過去事態が29%程度と比較的高くなっていることが挙げられる。

5. 結論

辻井（2003）や Pérez Saldanya (1999: p. 3316) では、過去領域 después (de) que における接続法について、従属節の内容を副次的な情報として提示するという情報構造的な用法が指摘されたが、最早その段階を通り過ぎて、「叙実性」という基準を棄てあらゆる文脈において接続法が使われる統語環境になってしまった、あるいは、その方向に向かっているように見える。すなわち、después (de) que の接続法化は、真偽判断より形態統語論的な体系的整合性を優先した結果であると言えることができる。これまで、言語の変化には常に意味機能の取捨、使用する人間からすれば、常にわかりやすさへの変化があることを観察してきたが、después (de) que の法選択の変化は、事実かどうかの判断を中断して情報を背景化するために接続法を使いはじめ

めた結果、形態統語論的に固定してしまい、それが過去領域から完了的過去領域を介して現在領域に広がっていったのではないかと考えられる。

謝辞

本稿は、2019年10月26日関西学院大学大阪梅田キャンパスにおいて開催された、関西スペイン語学研究会第427回例会での口頭発表に基づくものである。参加者の皆さんには貴重なご意見をいただき、心から御礼を申し上げる。

註

- 1) 調査時期の選定の理由は、辻井 (2008) の調査によると、1950-1959年での過去領域 después que は、直説法が94.7%で接続法が5.3%ということであったが、念のためにその前の時期である1900-1949年を今回調べてみると、直説法263例に対して接続法31例と、直説法が約89%と支配的であったからである。また、2010-2011年は、調査開始時、CORPES XXIで調査可能な最も新しい時期であり、今回の調査では直説法35例に対して接続法838例と、接続法が約96%と圧倒している。
- 2) RAEのデータバンクである CORDE, CREA, CORPES XXI を適宜利用した。
- 3) この “el subjuntivo” が、括弧内で示された cantara, -se や hubiera, -se cantado だけを指すのか、cante や haya cantado も指すのか定かではない。ただし、挙げられた例は現在の習慣に接続法現在 (oscurezca) が使われている用法としてとれるので、おそらく接続法現在や現在完了も含むと解釈できる。
- 4) この表も含め、本稿における表の百分率は、小数点以下を四捨五入した概数である。
- 5) 1970年代以前の「新聞」に関してはあまりにサンプルが少ないということで調査結果がない。したがって、「書籍」も含めて1970年代以降の記述に留めた。また、数値は本稿に揃えて小数点以下を四捨五入した。
- 6) 直説法364例 (単純過去: 309, hubo p. p.: 2, 未完了過去: 21, había p.p.: 32)、接続法252例 (-ra: 231, hubiera p.p.: 11, -se: 10, hubiese p.p.: 0) なお、メキシコについては、2010-2011年の調査期間だけでは、統計を取るには全体の例数が少ないので、前後にそれぞれ2年伸ばし、2008-2013年を調査対象期間にした。
- 7) A氏の(32b) tan pronto comoにおける接続法の理由は不明であり今回は追求しない。

引用文献

- Borrego, Julio, José Gómez Asencio y Emilio Prieto (1986) *El subjuntivo. Valores y usos*, Madrid: SGEL.
Butt, J. & Benjamin, C (1988) *A new reference grammar of modern Spanish*, 3^a ed. (2000), London: McGraw-Hill.
Fente, Rafael, Jesús Fernández y Lope G. Feijóo (1981) *El subjuntivo*, Madrid: SGEL, 1981.

- Fernández Alvarez, Jesús (1984) *El subjuntivo*. Madrid: EDI-6.
- Martinel, Emma (1985) *El subjuntivo*, Madrid: Coloquio.
- Navas Ruiz, Ricardo (1986) *El subjuntivo castellano*, Salamanca: Colegio de España.
- Pérez Saldanya, Manuel (1999) “El modo en las subordinadas relativas y adverbiales”, *Gramática descriptiva de la lengua española* (dirigida por Ignacio Bosque y Violeta Demonte, Tomo II, pp.3253-3322, Madrid: Espasa-Calpe.
- Porto Dapena, José Álvaro (1991) *Del indicativo al subjuntivo*, Madrid: Arco/Libros.
- Real Academia Española y Asociación de la Lengua Española (2009) *Nueva gramática de la lengua española*, Madrid: Espasa Libros.
- Sastre, María Ángeles (1997) *El subjuntivo en español*, Madrid: Colegio de España.
- 辻井宗明 (2003) 「現代スペイン語における過去指示 después de que の法について」『関西外国語大学研究論集』、第77号、pp.61-80.
- 辻井宗明 (2008) 「過去指示 después que と después de que における「抽象的時間関係」と叙法の相関性について」『関西外国語大学研究論集』、第88号、pp.93-112.
- 辻井宗明 (2014) 「イスパノアメリカにおける過去指示 después de que の法について」『関西外国語大学研究論集』、第100号、pp.57-78.

資料体

〈書籍〉

- Federación Española de Baloncesto (1957). *REGLAS OFICIALES DE BALONCESTO 1957*, Madrid.
- Federación Española de Baloncesto (1965). *REGLAS OFICIALES DE BALONCESTO 1964-68*, Madrid.

〈Web〉

- CADENA SER. https://cadenaser.com/ser/2011/08/23/actualidad/1314050401_850215.html (最終アクセス：2019年3月10日).
- Real Academia Española. Corpus Diacrónico del Español (CORDE), <http://corpus.rae.es/cordenet.html> (最終アクセス：2019年9月2日).
- Real Academia Española. Corpus de Referencia del Español Actual (CREA), <http://corpus.rae.es/creanet.html> (最終アクセス：2019年9月2日).
- Real Academia Española. Corpus del español del siglo XXI (CORPES XXI), <http://web.frl.es/CORPES/view/inicioExterno.view> (最終アクセス：2019年9月2日).
- Reglas oficiales del baloncesto 2012, <http://www.fbcml.net/cta/paginas/reglamentacion/reglas2012.pdf> (最終アクセス：2019年8月30日).

(つじい・むねあき 外国語学部教授)